ポスターNo.A6　　**実践発表**

漫才を取り入れた日本語指導の実践
―仲間とともに会話力と自己肯定感を育む―

中山美紀子（元　京都市立中学校日本語指導担当教員）

１．　実践の背景

発表者は、年に数人日本語指導が必要な生徒が編入する公立中学校において日本語指導担当教員として、週 2 時間特別教育課程による巡回指導を行っていた。対象生徒の中には日本語の知識や力がついてきても、在籍学級では発話せず孤立傾向にある生徒や一方的に話して会話のやりとりが成立しにくい生徒がいた。複数指導をしていたが、生徒同士が意見交流したり学び合ったりする関係も十分とは言えなかった。こうした課題に対し、会話の実践力を高めるとともに、自分の日本語力や自分自身に自信をもってほしいと考えていた。そのような折、読売新聞ワークシート通信（2025 年 1 月 29 日）「漫才　やってみよう！」で、教育漫才は言葉を学び相手の思いを想像する力を養えることを知り、相手とのやりとりや聞き手への意識を必要とする漫才を指導に取り入れようと考えた。漫才には言語的および非言語的コミュニケーションの要素が含まれており、実際の会話に近いやりとりを繰り返し練習できる。また、仲間と協働しながら発表に向かう過程を通して、達成感や自己肯定感を得ることも期待できると考えた。さらに、漫才は関西に根付いた文化であり、漫才を知ることで、周りの生徒たちとなじむ一助となると考えた。

２．　対象生徒と課題

対象生徒は公立中学校 2 校（A 中学校・B 中学校）に在籍し日本語指導を受けている 7 名。滞日期間は 7 か月から 1 年 5 か月である。この中には、在籍学級ではほとんど話さない生徒、一方的な発話が多く相手の話を聞くのが苦手な生徒、仲間との協働や意見交流が苦手な生徒、緊張して在籍学級では発表ができない生徒がいた。共通する課題は、実際の会話に必要なやりとりの力と仲間との関係づくり、自分に自信をもつことであった。

３．　実践の目標

共に学ぶ仲間とのつながりの中で、日本語の力や自己肯定感を育む。

４．　実践の内容と過程

A 中学校のグループ 1（2 名）は 50 分×1 コマ、グループ 2（2 名）は 50 分×1.5 コマ、B 中学校（3 名）は 50 分×2 コマで実施した。まず読売新聞ワークシート通信（2025 年 1 月 29 日）「漫才　やってみよう！」[1)] から、教育漫才の効果の読み取りを行った。[2)] 次に子ども向け漫才動画[3)] を視聴し、話し方や相槌、表情、視線などについて観察した。その後、生徒同士や発表者と漫才の練習を行い、動画によるふり返りや相互評価を繰り返した。最後に発表を行い、仲間や教職員から評価や感想を受けた。[4)] 自分でもふり返りを行った。

練習当初は、話し出すタイミングの悪いやりとりや相手への厳しい指摘も見られた。しかし、練習動画を見返しながら練習と評価を重ねる中で、相手の反応を見て話すことや、助言し合うことを意識するようになった。ほめたり励ましたりする言葉も聞かれるようになった。また発表者

や会話が得意な生徒の演技を観察し、その表情や相槌、フィラー、話すテンポなどを自分の表現に取り入れようとする様子も見られた。さらに、発表直前に強い緊張から参加をためらう生徒がいた際には、仲間が励ましつづけたことで発表に参加することができた。このような過程を通して、生徒同士の信頼関係や協働する姿勢が育まれていった。

５．　結果と考察

実践後、生徒たちは相槌や発話のタイミングを意識し、相手の話を聴いてから応答する姿が見られるようになった。また、在籍学級で教師や周りの生徒と話し始めた生徒、恥ずかしいという理由で常に着用していたマスクを外した生徒、発表活動に積極的に参加するようになった生徒もいた。勝手な行動をとり活動に参加しづらかった生徒が、活動に参加するようになった。さらに、互いを認めたり、励ましたりする姿勢が生まれ、グループ内で学び合い支え合う関係が形成された。特に、発表をためらう仲間を受け入れ支援する姿勢は、生徒間の信頼関係が深まったことを示している。

これらの変化は、漫才の練習を通して実際の会話に近いやりとりを繰り返したことに加え、動画視聴により自らの姿をふり返り成長を実感できたこと、そして仲間や教職員から評価や称賛を受けたことによるものだと考えられる。漫才を取り入れた指導は、会話力の向上だけでなく仲間との関係形成や自己肯定感の向上にも寄与したと考えられる。一方で、在籍学級での実際のコミュニケーションにつなげるためには、日常場面を想定した継続的な実践が必要である。

注）

１）読売新聞ワークシート通信（2025 年 1 月 29 日）「★★★」『漫才　やってみよう！』読売新聞教育ネットワーク

２）読み取りは A 中学校のみ実施。B 中学校では実施していない。

３）いろりろチャンネル（2024 年 3 月 15 日）『幼稚園が爆笑の渦に！ダブルヒガシの子ども漫才!【いろりろ公式】』YouTube

４）A 中学校では動画を撮影し教職員や本人たちが視聴。B 中学校では教職員が発表を参観。参観できなかった教職員と本人たちは動画を視聴。

【引用文献】

・ いろりろチャンネル（2024 年 3 月 15 日）『幼稚園が爆笑の渦に！ダブルヒガシの子ども漫才！【いろりろ公式】』YouTube

・ 読売新聞ワークシート通信（2025 年 1 月 29 日）「★★★」『漫才　やってみよう！』読売新聞教育ネットワーク